| 1987 6 | SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | • | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| | 28 | 29 | 30 | • | • | • | • |

●毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
**そなえる**…用意する、そろえる、用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
**そなえ**……したく、用意、警戒、防御
備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。
**そなわる**……準備ができる、身に付く
●●●ソナエ　アレバ　ウレイナシ!!


かわさき
防災広報紙
NO. 34
昭和62年5月31日発行
発行◉川崎市
編集◉土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841

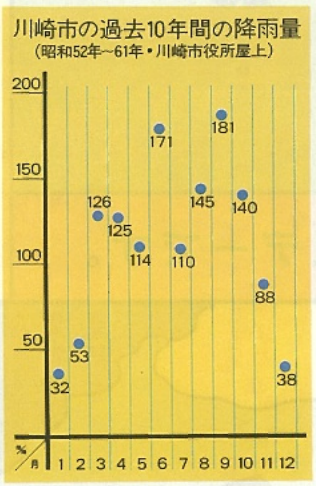
## 愛する人のことを考えると備えずにはいられない。

わが国は、世界有数の地震国で地震の被害も多いのですが、
梅雨や台風など水による災害も決して少くありません。
暦のうえでは、6月11日が入梅ですが、
雨に対する備えはできているでしょうか。
少量の雨でも、長い間降りつづくと、
災害が発生しやすくなりますので、
決して油断はできません。
また梅雨の後半になると集中豪雨がおこりやすく、
川崎でも昭和60年7月14日の集中豪雨の際、
川崎区、幸区、中原区の3区で床上浸水290戸、
床下浸水2855戸の大きな被害をうけています。
梅雨入り前の今の時期から、日曜日などを利用して、
わが家の梅雨対策を準備しておきましょう。

# こころに大雨洪水警報をもとう。

**もし今、集中豪雨に見舞われたら、あなたは的確に対応できますか。風水害の発生しやすい季節が近づいています。いざという時のために、もう一度身辺の備えと、心の備えをしてください。**

川崎市での過去10年の月別平均雨量を見てみると、6月にはいって雨量が急激に多くなります。これは言うまでもなく、梅雨によるもので、8～10月の台風時期と同じくらいの雨が降っていることになります。




## 梅雨入り前の準備

**●家のまわり**

①雨戸やテレビのアンテナなど、家の弱い箇所の補強をする。

②側溝や宅地内の排水管の清掃を心がけ、雨水を流れやすくする。

③伸びすぎた庭木は家屋に被害を与えないように枝を落とす。

**●非常持出品など**

①懐中電灯・ローソク・トランジスタラジオ（予備電池も）を用意する。

②貴重品はまとめておく。

③非常食・飲料水・医薬品を用意する。

**●避難場所の確認**

①万一避難することを考えて、避難場所を確認しておきましょう。

②道路が冠水しているときは、溝や深みにはまる危険があるので、避難場所までのルートも考えておきましょう。

（避難場所は、風水害時と地震時では違いますので、注意して下さい。）

## 南部防災センターだより

### 医療救護室と医薬品備蓄

南部防災センターでは、「いざ災害に備えて！」、医療救護室と医療品備蓄を完備しています。医療救護室は、災害時被害者の応急手当など、簡易な手術ができるような設備を整えてあります。また、医療品備蓄は、定期的に、各種医療器具の滅菌や医薬品の入替などを実施し、非常時に備えています。ぜひ一度ご見学されてはいかがですか。

川崎市南部防災センター

◉ご利用、ご見学のお問い合せは
川崎市南部防災センター
川崎市川崎区小田7-3-1 TEL 355-2175
交通
JR川崎駅中央口14・21出入口
1番バス乗り場、臨港バス富士電機行き、
小田小学校前下車　徒歩6分

## 地震の心得 6

**「がけ崩れ、低地での浸水に注意」**

急傾斜地ではがけ崩れがおこりやすく、低地では浸水のおそれがあります。テレビ・ラジオや市の同報無線などで情報を収集しながら、万一危険がせまったときには、すばやく安全な場所に避難しましょう。

## 急傾斜地のパトロール

昨年のパトロール（高津区）

川崎市では、警察署・消防署・区役所・土木事務所など県と市の防災関係機関と協力して、市内の急傾斜地のパトロールを実施し、危険箇所の点検とポスターの掲示等がけくずれ防止のPRを行っています。

現在、市内には56箇所の急傾斜地があり、付近に約2400世帯の方々が住んでいます。雨が降りつづいたあとなど、がけの状態に注意しましょう。

## 体験談34

# 水禍を越えて
## ―那珂川水害リポート―

（水戸市立第二中学校　提供）

### 水害

一年一組（当時）伊藤　仁司さん

ぼくの家は、台風十号の影響で、洪水にあった。洪水にあう前日は、大雨で父が、「明日は、まちがいなく水が出るから、朝は、早く起きなくてはな。」と言った。そして、太田街道へ行ってみた。もう、水は、ひざまできていた。父母の車が心配になり、父が車を他の高い場所へと移した。

朝、五時半に目が覚めた。それから、となりの家に行った。水が来ていた。家の前は、もう腰まで水があった。ゴムボートをつくり始めた。この時は、遊び気分でいたが、四年前の洪水のようではなかった。

自分の家に行ってみた。ぼくの家は、他の家に比べて一メートル近く高かったが、結果は同じであった。ふとんやラジカセ、衣類やかばん、その他、いろいろな物を屋根上にのせた。

水は、どんどん増え続けた。三十分に約二十センチも出た。犬も高い所へのせた。家の前の水は、約二・五メートルぐらいになった。

今度は、いよいよぼくたちが危険になり、父の舟で屋根の上にのった。

一時、避難したのだ。家の前は、本流になり、材木やゴミなどが、休みなしに流れていった。

夕方四時、本格的に避難した。

次の日、水は腰当りまでに引き、家にもどった。もう、見るのもいやになった。家の中は、タンスや本だなが横になり、下はドロが十センチぐらいたまり、ものすごくいやなニオイがした。「これから、かたづけるのか」と思うと、泣きたくなるほどだった。

しかし、知り合いのおじさんや、父・母の兄弟が来てくれ、その日の内に、部屋に荷物をおけるようになった。それから、かたづけは、約二週間かかった。

今では、もう、ふつうの家であるが、あの時のひさんなものは、生まれて初めてであった。着る物も、初めの方はみすぼらしかった。けどみんなが心配してくれ、その内に、だんだんもどってきた。

火事などなら、あきらめもつくだろうが、この「水害」だけは、あきらめがつかなかった。

しかし、母の、

「みんなどの家もこうなんだから、がんばってやろう。」

と言う言葉に、心を強く打たれた。

自分の勉強用具や洋服、遊び用具をさらっていった水。本当に、思い出すごとにくやしい。

昭和61年8月4～5日台風10号による小貝川（利根川水系）の氾濫
（社）日本河川協会提供

※台風10号
昭和六十一年八月四～五日関東・東北地方の一都十五県で、死者十八人、行方不明二人、床上浸水一七、二六〇戸、床下浸水五七、八七七戸